平成26年度における退職報償金の支払状況

（退職報償課）

平成26年度における退職報償金の支払人数・支払額等について、その概要を以下に紹介します。

1　支払状況

平成26年度の支払人数は45,270人、支払額は15,999,183千円となっています。前年度に比べると、支払人数で117人増（0.27%増）、支払額で855,268千円増（5.66%増）と、いずれも増加しています（**図1**）。

1人当たりの平均支払額については353千円となっており、前年度と比べると、18千円増加しています（**図2**）。これは、平成26年度に退職報償金が大幅に引き上げられた結果、現年度退職者に係る支払額が増加したことが主な要因です。また、最近に見られる増加傾向については、経験を積んだ熟年層団員の割合が増加し、勤務年数が長期化していること（**図4**にて後述）が要因として考えられます。

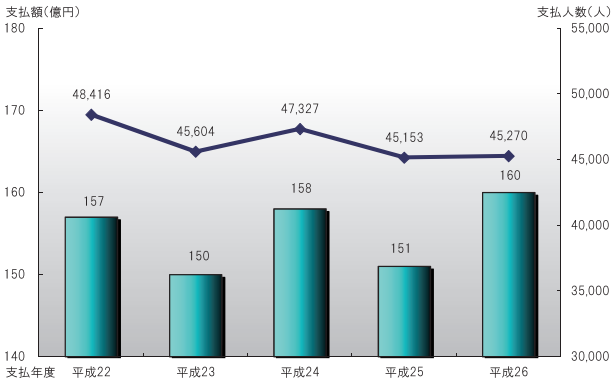

図１　支払人数と金額（最近５か年）

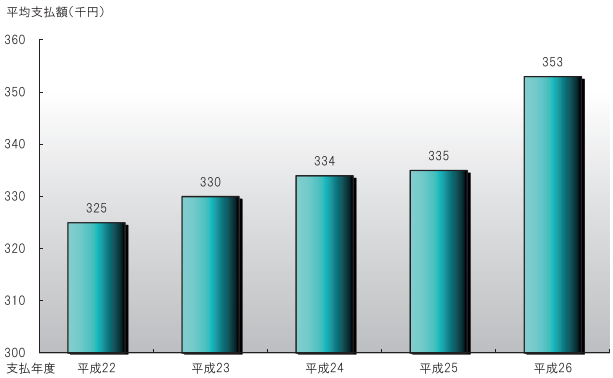

図２　平均支払額（最近５か年）

2　支払人数

支払人数について見ると、階級別では、「団員」の15,166人（33.5%）が最も多く、続いて「班長」の10,377人（22.9%）、「部長」の9,145人（20.2%）の順となっており、この3つの階級区分を合わせると全体の76.6%を占めています（**図3**）。階級別支払人数に変化はあまり見られません。

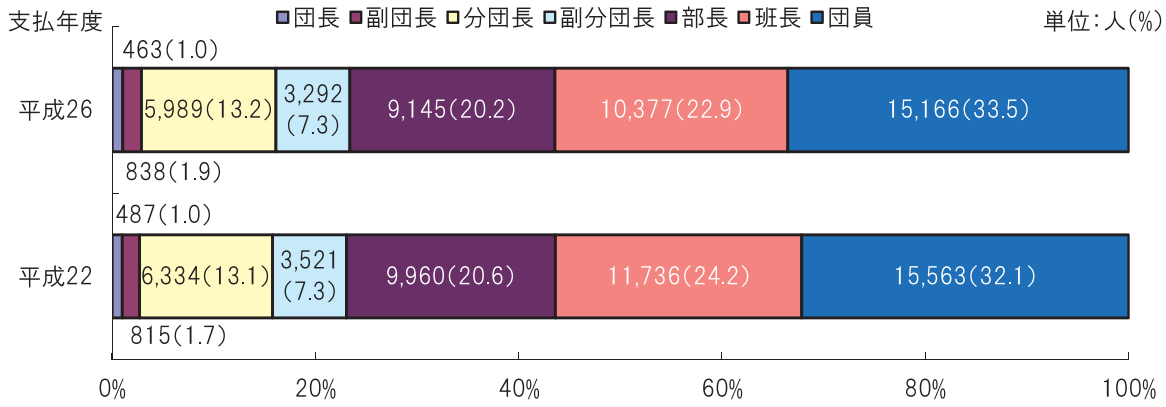

図３　階級別支払人数

勤務年数別では、「5年以上10年未満」の11,584人（25.6%）が最も多く、続いて「10年以上15年未満」の9,833人（21.7%）、「15年以上20年未満」の8,070人（17.8%）の順となっており、この3つの勤務年数区分を合わせると全体の65.1%を占めています（**図4**）。最近5か年を見ると、15年未満が減少傾向であるのに対し、15年以上が増加傾向にあり、勤務年数の長期化が進んでいます。

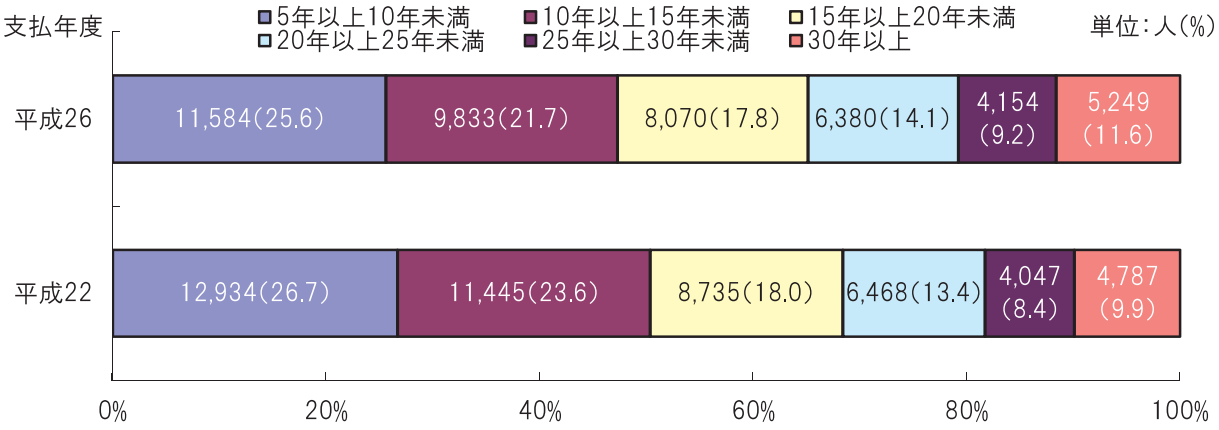

図４　勤務年数別支払人数

現年度・過年度別（※）では、「過年度退職者」の31,546人（69.7%）に対し、「現年度退職者」は13,724人（30.3%）となっています（図5）。最近5か年を見ると、現年度（過年度）支払人数の割合は減少（増加）傾向を見せています。この主な要因としては、4月1日退職の団員数に比して3月31日退職の団員数が増加していることが挙げられます。

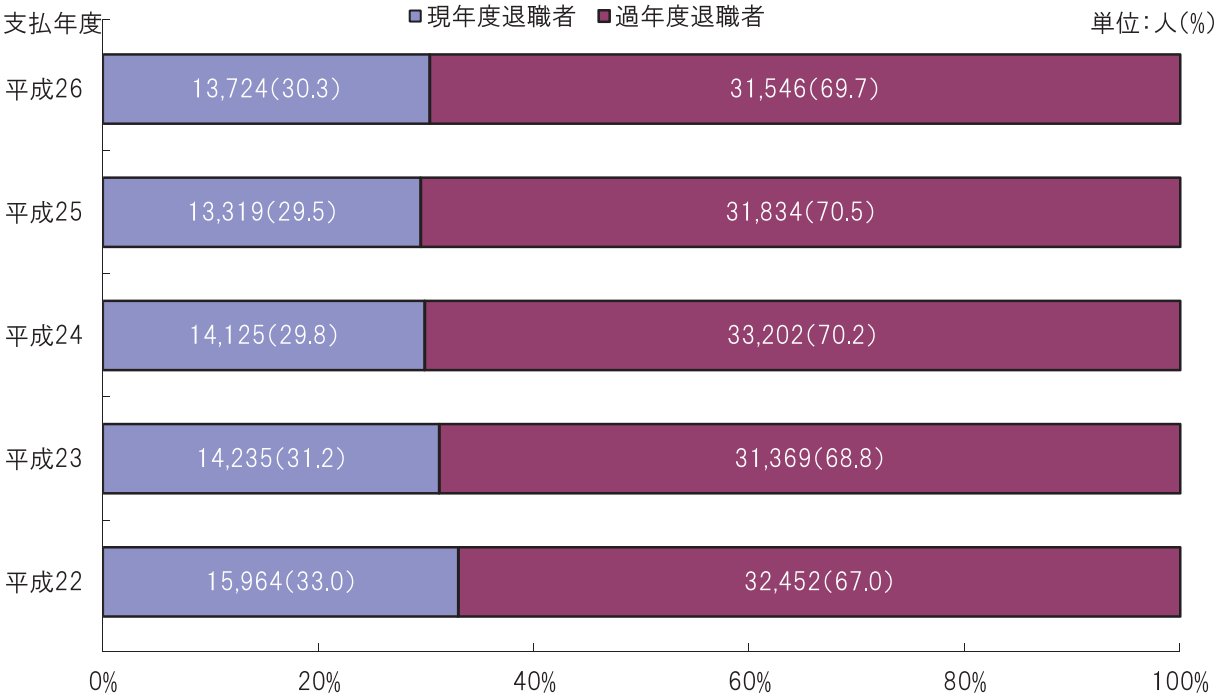

図５　現年度・過年度別支払人数（最近５か年）

3　支払額

支払額について見ると、階級別では、「団員」の3,620百万円（22.6%）が最も多く、続いて「部長」の3,424百万円（21.4%）、「班長」の3,376百万円（21.1%）の順となっており、この3つの階級区分を合わせると全体の65.1%を占めています（**図6**）。

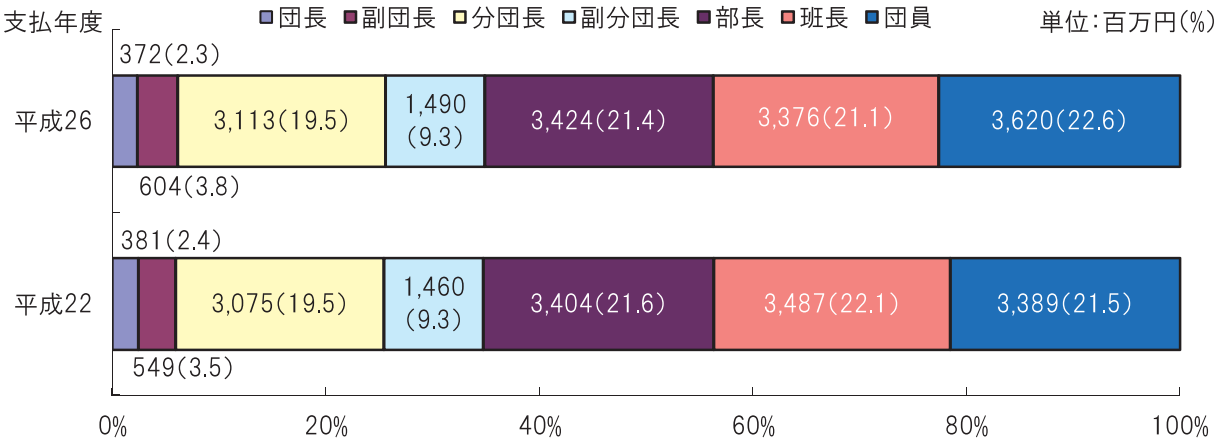

図６　階級別支払額

勤務年数別では、「30年以上」の4,057百万円（25.4%）が最も多く、続いて「20年以上25年未満」の2,678百万円（16.7%）、「15年以上20年未満」の2,645百万円（16.5%）の順となっており、この3つの勤務年数区分を合わせると全体の58.6%を占めています（**図7**）。最近5か年を見ると、20年未満の割合が減少傾向であるのに対し、30年以上の割合が増加傾向にあります。

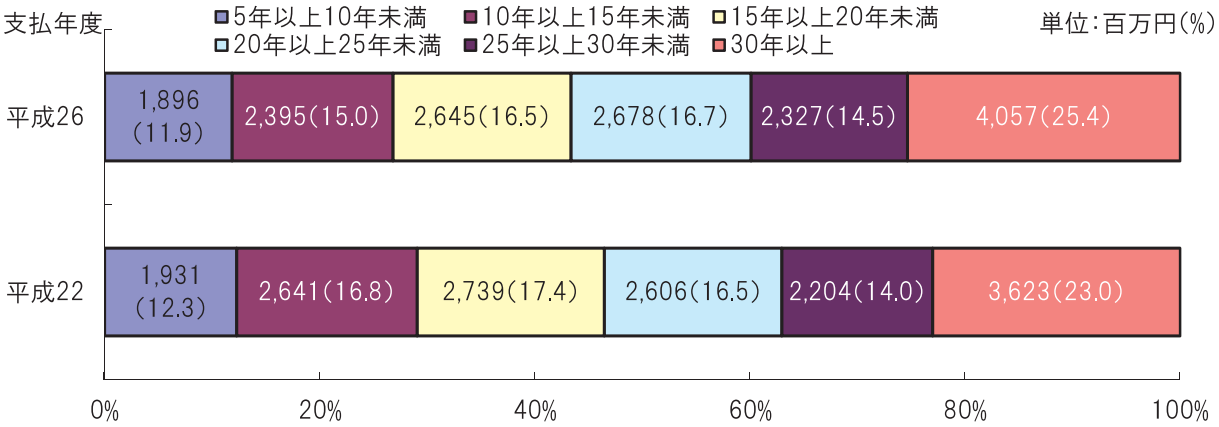

図７　勤務年数別支払額

現年度・過年度別では、「過年度退職者」の10,522百万円（65.8%）に対し、「現年度退職者」は5,477百万円（34.2%）となっています（**図8**）。

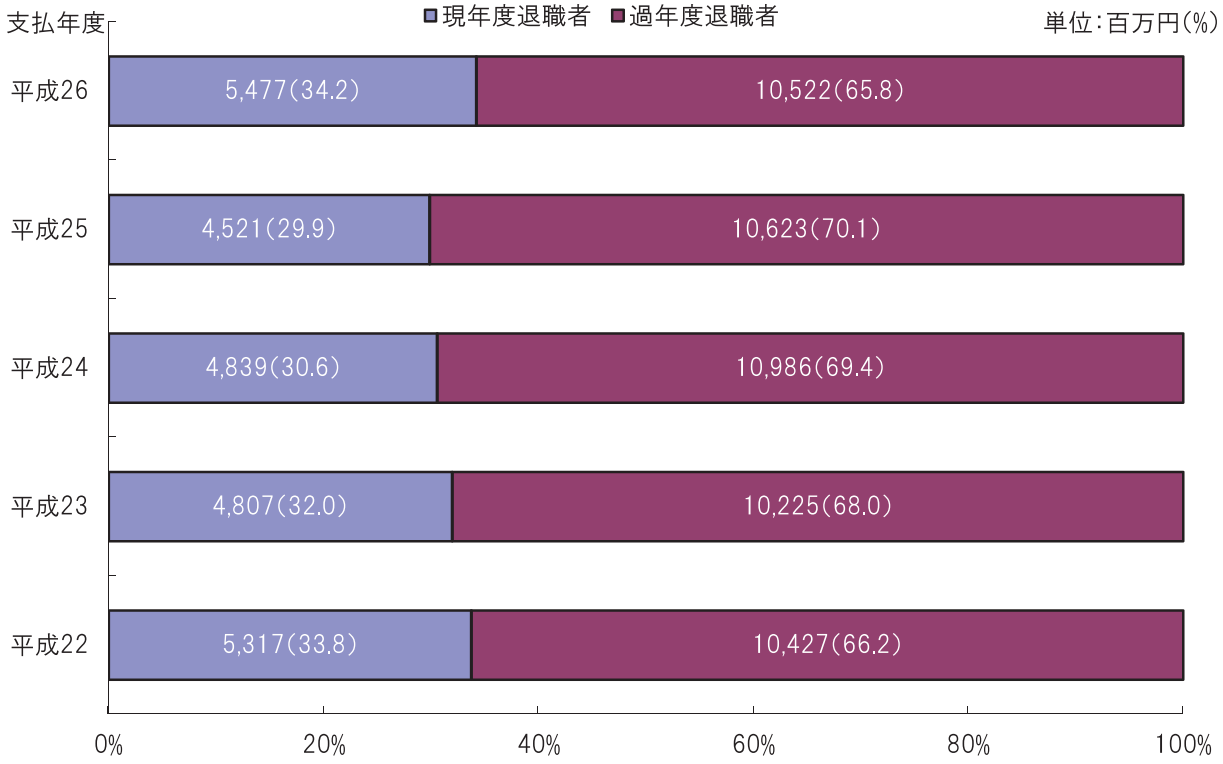

図８　現年度・過年度別支払額（最近５か年）

※　一つの支払年度において、当該年度中に退職した者を現年度退職者といい、当該年度前に退職した者を過年度退職者といいます。